

まちづくりフォーラム

みんなの広場

おれたちややるぞ!!

「マンネリになった地域、満たされない毎日。ふるさとってこんなものじゃない。今、求められるのは、ありのままの地域の見直しと、新しいネットワークだ。だから、オレたちが何かを始めなければ」と、まちの若者たちが「夢倶楽部」という集まりを作り、昨年からの具体的な行動をしています。



また、来る三月十四日(土)十五日(日)にかけて、「夢フォーラム'92」と題したシンポジウムを油谷町青年の家で企画しています。そこで、このイベントにける彼らの意気込みと夢倶楽部そのものの生い立ちなどを、メンバーに聞いてみました。

夢倶楽部って何?

花岡「去年夢岬というイベントを油谷町の若者が集まってやりました。その時にいいメンバーが集まったんです。それで、この勢いでいままでの青年団とは違う、みんなが来やすく活動しやすいクラブを作りたいこうではないか、ということになりました。それで、昔からのイメージを変えようということでも名称も、自分たちの夢を実現させるための倶楽部の意味で、夢倶楽部



にしたんです。

「夢倶楽部」は、自分たちの夢を実現させる、という意味をこめています。

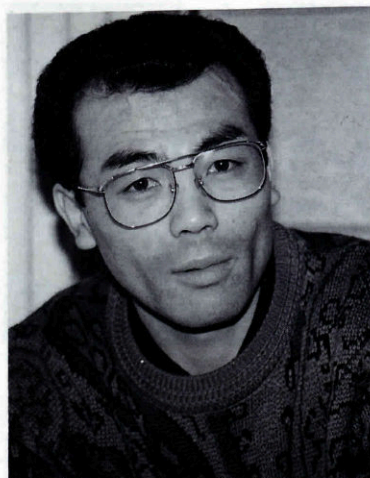
花岡さん(中畑)

沖田「それで、町のいろいろな行事に参加して、焼き鳥を売ったり、たまごのつかみどり、等いろんなことをやったり、クリスマスパーティーなども企画しました。金銭的な面で成功することよりも、若い人たちが集まりだしたし、それを通してメンバーが少しずつでも増えていったというのが一番いいことだと思います。メンバーの人数は現在、正式には二五人くらいでしょうか。年齢、性別、職業などいろいろな問いません。自分がやりたいことをどんどんアピールしてそれをみんなで作っていく、というものですから、気軽に集まってほしいと思います。」

林「ただ問題として集まる場所がない、ということがあります。もし、公民館を制約

なしに使わせてもらえても、どこか気兼ねがあるし、使にくい面があります。ざっくりばらんに集まって話し合える場所があるといいですね。いつも焼き鳥屋では、お金もかかるし、遊んでいるように見えるし、どうも情けないですね。」

沖田「いつでも勝手に入れて電気をつけて活動していたら、外を通りかかったメンバーが、あ、だれかやっちゃるの、と入ってくる、という環境ができる、といいですね。」



われわれのような活動をするものが、気軽に集まれる場所を作ってほしいですね。

林さん(蔵小田)

来てね! 夢フォーラムへ

岡田「平成三年度の最後の行事として、「夢フォーラム'92」をやります。これは油谷町、日置町、三隅町の青年団で作っている大津郡連の活動の一環で、今年は大津郡が引き受けということで、この機会を積極的に利用し、今までにないものになりたいと思っています。

内容は、安倍一成先生(西南学院大学)に基調講演をしていただきます。講演の内容は、今の北浦の現状と問題点、それを打開するための方策、という内容になると思います。それと地域づくりシンポジウム、というのが目玉ですが、これはサンデー北浦という新聞の編集長でもあり、率先して地域づくりに取り組んでおられる森本文規さんや三隅町